



④



②



⑤



③



①

①熱戦を展開する参加選手 ②大会長開会挨拶
③選手代表宣誓 ④大会役員 ⑤競技スタッフ

第16回全国障害者スポーツ大会 希望郷いわて オープン卓球バレー全国交流大会

熱戦・感動・感謝

40チームが熱戦を練り広げる

「卓球バレー」などオープン競技 3市町で開催

第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」は、10月22日から3日間、県内8市町で13正式競技、県内3市町で4オープン競技が開催され、全国の選手の熱戦が各会場で練り広げられました。

大会スローガンは国体に続き「広げよう感動。伝えよう感動」。正式競技は本県290人を含む総勢3,324人が参加し、障害者アスリートたちが白熱した競技を展開しました。

正式競技が行われる期間中、障害者スポーツの普及を目的としたオープン競技も22日〜23日の2日間、次の3市町で開催されました。

- ▼卓球バレー
盛岡市・ふれあいランド岩手
- ▼ビリヤード
盛岡市・ビリヤードBRIDGE
- ▼ゲートボール
紫波町・紫波町多目的スポーツ施設
- ▼ペタンク
一戸町・一戸町総合運動公園

「チャレンジクラス」と 「わんこクラス」の2部門で熱戦

ふれあいランド岩手・体育館を会場に開催された卓球バレー（日本卓球バレー連盟など主催）

には、チャレンジクラスとわんこクラス2部門に計397人が出場（県外16、県内24の合計40チーム）。選手たちは1チーム6人で卓球台を囲み、熱いラリーを練り広げました。

開会あいさつで藤井公博大会長（岩手県身体障害者福祉協会会長）は「卓球バレー先進地の皆様をはじめ、県内外の多くの関係者のご協力で本大会を開催することができました。ユニバーサルスポーツの代表である卓球バレーは、今後のスポーツ振興の新たな可能性を広げるとともに、共生社会を深める一助になると思っています。」と挨拶。

岩手県金ケ崎町「かねがさき」チームの鈴木伸也選手が堂々と選手宣誓。チャレンジクラスとわんこクラスに分かれて予選リーグが幕を開けました。

北上市のしらゆりチーム（わんこクラス）の八重樫けい子選手は「チームワークの良い試合が良い結果につながるが言い言葉。この日のために練習に力を入れてきた。最後まで諦めずに楽しんでプレーしたい。」「同じくわんこクラスの宮古身体障害者福祉チームの高橋智監督は「一致団結したプレーで底力をみせたい。ただ帰るわけにはいきません。」と闘志を燃やしていました。



出場チーム

チャレンジクラス (24 チーム)

- 青森ジョッパーズ (青森県)
- はまなす (秋田県)
- 宮城・気仙沼 (宮城県)
- 上杉の杜スポーツクラブアマジ〜ク (山形県)
- せんしょう庵 (宮城県)
- フレンドリー春日部 (埼玉県)
- Workers (ワーカーズ) (富山県)
- キララ (京都府)
- 淡路市わいわいサークル (兵庫県)
- 琴の浦福祉工場 (和歌山県)
- 鳥取県 (鳥取県)
- ひまわり (山口県)
- 太陽の家 サンシャイン (大分県)
- かががらす卓球バレークラブ (佐賀県)
- 真和館 (熊本県)
- 花山手卓球バレークラブ (宮崎県)
- もりおか TVC (岩手県)
- さくらチーム (岩手県)
- アスレクト (岩手県)
- ISVC (岩手県)
- 岩手ワークショップ (岩手県)
- 花巻 A (岩手県)
- かねがさき (岩手県)
- 飛天 (岩手県)

わんこクラス (16 チーム・県内のみ)

- イーハートブ (盛岡市)
- 杏番星 (奥州市)
- しらいと (金ケ崎町)
- 地活かねはま (宮古市)
- 宮古市身体障害者福祉会 (宮古市)
- しらゆりチーム (北上市)
- 花巻 B (花巻市)
- スッキーズ (普代村)
- 大船渡市身体障がい者協会 (大船渡市)
- アダージョ (盛岡市)
- 北上パープルズ (北上市)
- ふたば (一戸町)
- じあい (大船渡市)
- ワークステーション湯田・沢内 (西和賀町)
- ひばり療護園 (久慈市)
- 一関市身体障害者協議会 (一関市)

各賞発表

チャレンジクラス

- 優勝 ひまわり (山口県)
- 準優勝 キララ (京都府)
- 第3位 アスレクト (岩手県)

わんこクラス

- 優勝 宮古市身体障害者福祉会 (宮古市)
- 準優勝 しらいと (金ケ崎町)
- 第3位 しらゆりチーム (北上市)

敢闘賞

- 真和館 (熊本県)
- ひばり療護園 (久慈市)

開催趣旨

近年、究極のユニバーサルスポーツとして注目を集める卓球バレー競技であるが、全国規模の大会は、東日本では初めての開催であり、岩手県内のみならず東北地区を中心に重度及び高齢障がい者の参加の可能性を広げることが期待される。また、スポーツに対する参加意識の高揚は、地域のスポーツ参加の受入れ態勢の整備にも大きな影響を与えるものであり、生涯スポーツの推進に寄与できるものとする。

実施にあたっては、福祉関係者のみならず、一般のスポーツ関係者との連携にも重点を置くことにより、さらなる効果をもたらすと予想できる。さらに、東日本大震災被災県として初めての開催であることも考慮しながら東北地区と全国から参加する選手・役員の交流の場となる大会を目指したい。

主催

日本卓球バレー連盟、社会福祉法人岩手県身体障害者福祉協会、岩手県卓球バレー協会

共催

岩手県障がい者社会参加推進センター、ふれあいランド岩手

主管

希望郷いわて大会卓球バレー競技実行委員会

後援

岩手県、盛岡市、岩手県教育委員会、社会福祉法人岩手県社会福祉協議会、社会福祉法人盛岡市社会福祉協議会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、公益財団法人岩手県体育協会、岩手県障がい者スポーツ指導者協議会、岩手県スポーツ推進委員協議会、盛岡市スポーツ推進委員協議会、岩手県レクリエーション協会、一般社団法人岩手県手をつなぐ育成会、NPO 法人岩手県精神保健福祉連合会、岩手県知的障害者福祉協会、岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、盛岡市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

卓球バレー競技とは

1チーム6名で卓球台を囲むように座り、合計12名で試合をします。長方形の木製ラケットにサウンドテーブルテニス用(中に鉛玉が入り音がする)のピン球を使用し、ネットを越し、3打以内で相手コートに返す競技です。

全員が椅子に座り、ネット下を転がしてプレーするので、重い障がいを持つ方から子ども、お年寄りまで一緒に楽しめる究極のユニバーサルスポーツとして注目されています。



県内外からの参加選手は熱戦を展開。各賞発表と表彰のあと、感動とともに閉幕しました。審判長を務めたふれあいランド岩手の佐々木秀治職員は「究極のユニバーサルスポーツとして注目を集める卓球バレー競技は、東日本では初めての開催。選手、スタッフ、ボランティア、応援者が一つになって大会を盛り上げました。大会はいわての卓球バレーの裾野を広げる契機

にもなったと思います。」と強調。大会を終えて準備・運営に奔走した実行委員やボランティアらはほっとした喜びの表情。エントランスホールには、障がい者福祉施設のファーム仁王と社会福祉法人信和会の製品販売ブースが設けられ、選手や観客で賑わい、ファーム仁王は「ガンバレ卓球バレー」の文字と絵柄が描かれた「いわて大会缶バッジ」などを販売。とん汁や

コーヒーなども人気でした。伊藤大助サービスマン管理責任者は「復興支援に感謝を伝えながら、選手の皆さんを応援しました。」と笑顔を見せました。なお、昼食休憩時間には盛岡市ののびっこ太鼓演奏センターの「のびっこ太鼓」演奏や卓球バレーのテーマソングでおなじみの今成佳奈さんのミニコンサートが大会を盛り上げました。



「のびっこ太鼓」演奏